

株式会社ジェイコム湘南・神奈川 秦野・伊勢原局

2020 年度 放送番組審議会 議事録

2020 年度の放送番組審議会は、2021 年 3 月 23 日(火)に秦野商工会議所会議室で開催された。

〈放送番組審議会委員〉 (五十音順)

—ご出席—

安藤 隆幸 様	猪野 好春 様	大町 徹 様
串田 浩 様	中野 貴之 様	

事業者側から局の現況報告、及び J:COM チャンネル(11ch)と J:COM テレビ(10ch)について報告があった。

【番組制作について質疑応答・意見交換】(安藤会長による進行)

委員 秦野市では SNS を活用した取り組みを進めている。情報戦略としても有効なので、J:COM で放送する秦野の取り組みやイベントなどの放送案内を登録している市民へ発信することで、オンデマンドなどの視聴促進につながるのではないかと。

人図鑑という番組が新しくスタートするようだが、秦野のふるさと大使に焦点をあててもらえれば、市民も身近に感じてもらえるのではないかと。

また、秦野では新総合計画の取り組みが始まるが、まちを象徴する言葉として「森林観光都市」というワードを使っていく。J:COM の番組でも秦野を紹介する際にこの言葉を使っていただくなど、連携していきたい。

事業者 オンデマンドや Web での露出を進めていくのは課題と感じている。プロモーションで連携深めていきたい。人図鑑のふるさと大使出演については、ぜひ前向きに考えいきたい。

委員 コロナ情報の出し方は苦労されたことと思う。広域で放送するか、狭域で放送するかどのようにすみわけしたのか。また、LGBT など、これまで踏み込めなかった題材について行政と連携してドキュメンタリー番組として取り上げられないか。行政だけでは市民に伝わりにくい部分がある。市民が求めている情報を発信してほしい。

事業者 広域放送で伝えきれない情報は、狭域のL字放送でカバーしたが、秦野・伊勢原局エリアは系統的に課題があり、狭域で放送が出来なかった部分ある。情報を伝えたい人に、放送やSNSなど、どのような手法で伝えていくかを考えないと情報は届かない。行政の皆さんとも連携し課題解決していきたい。

委員 映像を通し、企業や製品を見てもらいPRするのは有効な方法だと思う。商工会議所と行政、J:COMがタッグを組み、中小企業の課題解決につなげたい。また、秦野ではジビエ料理に力を入れ始めた。伊勢原でも同様の取り組みがある。地域の新しいブランドづくりのPRをJ:COMにお願いしたい。

事業者 地元企業を応援するのは、私たちの使命。番組内で企業紹介するコーナーを検討しており、4月からトライアルスタートする。ジビエについては調理に至る過程など、一般の皆さんに知られていないことが多いと感じる。私たちも勉強しながら情報発信していきたい。

委員 民放での差別問題発言が問題となっているが、J:COMのチェック体制はどうなっているのか。

事業者 映像、原稿はダブルチェックし放送している。

委員 中小企業へのコロナ支援策が刻々と変わっている。情報が錯綜しているのできめ細かく発信してほしい。

会長 質疑応答は以上で終了とさせていただきます。貴重なご意見ありがとうございました。ぜひ、より良い番組作りをしていただければと思います。

以上